

1

ほっとアイステイ

宮城県名取高
等学校B

順番 俳句

作者

1 大空を「羽の鳶が輪を描く

星居蓮

2 花燃ゆる細かく綺麗な赤椿

星居蓮

3 風強く桜を浴びて落ち着いた

高橋沙緒莉

4 楽しそう活けた花々山笑ふ

大立目来夢

5 一生を重ね合わせる夜桜に

半澤歩結美

6 道のりをぶらぶら歩く春の街

高橋沙緒莉

7 夏期課題三昧境に惹き入れる

寺田美羽

8 夏の波自分の時間垂つく

寺田美羽

9 炎天下歪められてる世界線

寺田美羽

10 浮き輪もち海へのバスに揺られてた

半澤歩結美

11 絶頂は風向き次第アイステイ

半澤歩結美

12 空浮かぶ夜の暗がり花火かな

星居蓮

13 梅雨明けで片足²度づつ縁側で

大立目来夢

14 苦しまず自分と向き合うカタツムリ

南部遥香

15 自由の身思いのままだ夏の蝶

南部遥香

16 悠々と輪を画いてた渡り鳥

半澤歩結美

17 泣くような顔で手を振る秋の暮

大立目来夢

18 真萩散る夕陽の光薄れゆく

星居蓮

19 彼岸花滅亡の美を言い聞かせ

寺田美羽

20 「6歳大変な時期唐辛子

南部遥香

21 無垢な知性理性を産んだ鳳仙花

南部遥香

22 初明かり堂々とした店構え

南部遥香

23 休日に部屋でくつろぐ冬の昼

高橋沙緒莉

24 雪遊び友達とする風邪引いた

高橋沙緒莉

25 独特の住み分け原理オリオン座

大立目来夢

2

青春の25ページ

宮城県名取高等学校Ⅰ

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|------|
| 1 | 射場内花粉で黄色い弓と矢 | 阿部紗矢 |
| 2 | 弓引きを射抜き襲いし花粉症 | 三嶋千尋 |
| 3 | 新品の自身の一部風光る | 高野美侑 |
| 4 | 花見より死に物狂いシャトル追う | 高沢莉菜 |
| 5 | 桜の芽のようちいさき目標 | 高沢莉菜 |
| 6 | 炎天下喋の中は整う場 | 阿部紗矢 |
| 7 | 的思い夏の宵響く弦の音 | 三嶋千尋 |
| 8 | ゴールドへ共に並走向日葵と | 高野美侑 |
| 9 | 額滴るレモンスイ拭うキミ | 高沢莉菜 |
| 10 | 熱帯びる透明レースに汗拭う | 高沢莉菜 |
| 11 | 夏浅し次に向かう糧になる | 須郷心桜 |
| 12 | 炎天下限界の先飛べた自分 | 須郷心桜 |
| 13 | 薄暗い的を見る先登る月 | 阿部紗矢 |
| 14 | 弓引き中近所匂う焼き鳥だ | 三嶋千尋 |
| 15 | ユーフォソロ影が光る文化祭 | 高野美侑 |
| 16 | 満点の音を作りし上り月 | 高野美侑 |
| 17 | 霜焼けと戦う指や足袋の中 | 阿部紗矢 |
| 18 | 寒稽古揺らぐ足裏で足踏み | 三嶋千尋 |
| 19 | 的中音私にとって除夜の鐘 | 阿部紗矢 |
| 20 | 弓始こんなもんかと肩慣らし | 三嶋千尋 |
| 21 | 薄雪の絨毯厚く紡ぐ音 | 高野美侑 |
| 22 | 焼き芋を片目に走るランニング | 高沢莉菜 |
| 23 | 逆風も追い風になる冬の暮れ | 須郷心桜 |
| 24 | 初茜その一秒を削りだせ | 須郷心桜 |
| 25 | 息しろし競い合いつつ強くなる | 須郷心桜 |

3

歳時記

愛知県立岡崎
東高等学校

順番 俳句

作者

1 初日さすビルの重なる奥の奥

内田賢苾

2 新春の鐘の響きや大道芸

錦ななみ

3 初風呂の香りを母と選びけり

野本美優

4 あぜ道に童ら担ぐ獅子頭

松田侑季

5 うとうとと課題をこなす四日かな

野本美優

6 初桜一ページ目は丁寧

黒沢悠翔

7 春愁やクラスメイトの顔のなし

内田賢苾

8 泣きながら勉強励む花粉症

福岡千里

9 膨大な課題忘れて春眠し

野本美優

10 藍微塵名前忘るる曾孫かな

内田賢苾

11 夏の海透明ブルーに心澄む

福岡千里

12 黄昏に海鷗のくの字八十度

黒沢悠翔

13 夏雲や風に吹かるるロングヘア

錦ななみ

14 さつきまであの雲の下サングラス

黒沢悠翔

15 ペンライト推しへと向ける夏の宵

松田侑季

16 星月夜セカオワ流す帰り道

内田賢苾

17 屋根裏の母の似顔絵敬老日

黒沢悠翔

18 弟の林檎のうさぎ不格好

野本美優

19 念願の黒ネクタイやハロウィン

野本美優

20 銀杏散る夢咲坂を我は行く

錦ななみ

21 水鳥に名前を付ける君のいて

野本美優

22 こぼれ出たクリスマスっていいですね

内田賢苾

23 帰り道寒夕焼へペダル漕ぐ

福岡千里

24 友からのミサンガくくる春隣

松田侑季

25 待春やキュッとむすんでネクタイピン

黒沢悠翔

4

青蜜柑

星野高等学校B

順番 俳句

作者

1 春セーター誘いはいつも私から

齊藤栞

2 丸刈りの花盗人は肩の上

原口愛梨

3 春雪や変更なしの時間割

伊藤音々

4 トラックに最後の瓦礫風光る

今村美月

5 敬語からあだ名に変わり夏浅し

今村美月

6 海風や麦わら帽子君の手に

長谷部澄香

7 手を繋ぐ勇気を奪う夏の雨

伊藤音々

8 赤星や君のメールの通知待つ

長谷部澄香

9 風鈴の揺れている間に会いにきて

齊藤栞

10 顔文字の真意を探る夜長かな

佐野史絵那

11 どんぐりの帽子無くして髪を描く

原口愛梨

12 大富豪する花野行き列車かな

高木茉莉

13 青蜜柑良かれと思いやりました

齊藤栞

14 嘘つきに既読のついた聖夜かな

今村美月

15 妹の布団を剥いでだんごむし

高木茉莉

16 日脚伸ぶふるさと響く帰り道

高木茉莉

17 雪だるまの鼻を求めて野菜室

伊藤音々

18 怪獣のごと白息の子らの来る

齊藤栞

19 湯豆腐にはふはふしたる眼鏡かな

原口愛梨

20 行く年や口をきかない母と叔父

伊藤音々

21 年歩むもう開かないピアノあり

齊藤栞

22 陽の下に踊り転げる春着の子

長谷部澄香

23 年玉や叔父の手にある蜜柑の香

佐野史絵那

24 書き初めの「の」の字の肩身狭きこと

伊藤音々

25 春風や別れた人と出会う人

佐野史絵那

5

流れ着く

名古屋高等学
校 A

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|------|
| 1 | 夏の月ハブ酒にハブの絡み合ふ | 加納輝一 |
| 2 | 歯磨きに部屋を彷徨く金魚鉢 | 服部亮汰 |
| 3 | 扇風機漁港の椅子の硬さかな | 三浦英雄 |
| 4 | 蚊柱や命令形の標識に | 小田健太 |
| 5 | 口もつてゼリーの蓋を開けにけり | 服部亮汰 |
| 6 | かはほりや肉又で米を食らひゐる | 服部亮汰 |
| 7 | 浮くゐもり沈むゐもりや小雨降る | 加納輝一 |
| 8 | 秋暑しケバブの肉の回りをり | 小田健太 |
| 9 | 銀紙にチョコレートつく夜学かな | 三浦英雄 |
| 10 | 流れ着く塚に異国語秋の蠅 | 加納輝一 |
| 11 | 水澄みて天窓に陽の届きをり | 三浦英雄 |
| 12 | 開店の花のうるさき厄日かな | 服部亮汰 |
| 13 | 真白なり角を伐らるる鹿の尻 | 加納輝一 |
| 14 | 絞り切つて雑巾固し冬の星 | 加納輝一 |
| 15 | 折り紙の皺の増えゆく枯木かな | 三浦英雄 |
| 16 | 着膨れて坊主頭の乗つてゐる | 鈴木哲平 |
| 17 | 三越の獅子の銅像クリスマス | 加納輝一 |
| 18 | 皆バスに眠つてゐたり冬銀河 | 鈴木哲平 |
| 19 | じゃんけんで先攻決めるラガーかな | 服部亮汰 |
| 20 | 食券の出でくる無音春浅し | 服部亮汰 |
| 21 | 片仮名に予約の名簿雁帰る | 服部亮汰 |
| 22 | ちんあなご砂より伸びてくる日永 | 鈴木哲平 |
| 23 | 飛行機の便器の黒し四月馬鹿 | 加納輝一 |
| 24 | 花筏立てかけてある松葉杖 | 鈴木哲平 |
| 25 | 焼豚に食ひ込む紐や山笑ふ | 小田健太 |

6

あの日の空耳

宮城県名取高
等学校A

順番 俳句

作者

1 友人の活躍願う別れの日

太田京助

2 雪田や生温かいタンブラー

渡辺琉太

3 蝶が飛び春の訪れ知らせてる

小野直太郎

4 親の元巣立つときにはさくら咲く

星涼介

5 音もなく静かに揺れる桜の木

岩渕光希

6 鳴り響く蟬の鳴き声おわりかな

石戸兜雅

7 拙速な目覚ましさえ夢有明の月

渡辺琉太

8 甲子園夏より熱い球児たち

小野直太郎

9 短冊に願いを込める七夕に

小野直太郎

10 春の夜散歩をすれば桜散る

岩渕光希

11 競い合う線香花火これからも

太田京助

12 雀の子風に音乗る声奏で

星涼介

13 横たわり空を見上げて花曇り

岩渕光希

14 中秋に無心で眺める満月を

太田京助

15 木漏れ日と星と静けさしみじみと

石戸兜雅

16 あかとおんぼ待ってとおいかけ遠回り

石戸兜雅

17 鈴虫の鳴き声響く秋の夜

小野直太郎

18 音もせずものの静けさ寒風や

星涼介

19 穴惑いカレーが冷える冷蔵庫

渡辺琉太

20 見上げれば青く見える冬の空

太田京助

21 はーっとね白い息がでたんだよ

石戸兜雅

22 窓開けてお外を見たら雪景色

岩渕光希

23 物価高止まることなき南風

星涼介

24 校庭にたくさん並ぶ雪だるま

岩渕光希

25 しらす干し空を見上げる後ろ髪

渡辺琉太

7

ふくろふのいろ

山形県立山形
東高等学校

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | かへるでの黄色どきりと落ちにけり | 鈴木沙都 |
| 2 | 走れども太き尻尾の狸かな | 須藤臣人 |
| 3 | たま風や肉まんの館こぼれ落ち | 武田こはる |
| 4 | 見舞ふたびヤニの濃くなる襖かな | 鈴木沙都 |
| 5 | ストーブの暖かき音寒き音 | 須藤臣人 |
| 6 | 乾杯の右手にほくろ雪催 | 鈴木沙都 |
| 7 | 湯豆腐の箸より湯気の立つてをり | 三浦温人 |
| 8 | 天板の落書き薄き炬燵かな | 武田こはる |
| 9 | てつぺんの星の壊れてゐる聖樹 | 須藤臣人 |
| 10 | クレヨンの巻紙剥がし冬の雷 | 鈴木沙都 |
| 11 | 冬枯の道にチワワの糞りにけり | 三浦温人 |
| 12 | 龍の玉鍵を探してゐたるなり | 武田こはる |
| 13 | ふくろふのいろ鼻のゐる森のいろ | 三浦温人 |
| 14 | 風呂吹の上に睫毛の震へけり | 武田こはる |
| 15 | 短日やCan★Doの星くつきりと | 渡辺悠月 |
| 16 | 韓国に流行る冬帽子といふ | 三浦温人 |
| 17 | 日記買ふ日記の山の崩れけり | 渡辺悠月 |
| 18 | 初空や母の真珠のつるつると | 武田こはる |
| 19 | 寒椿シャッター音を身に浴びて | 武田こはる |
| 20 | 雪吊や救急箱を探しつつ | 鈴木沙都 |
| 21 | カーポート満車や鏡餅開く | 須藤臣人 |
| 22 | 採氷のいま太陽を切り出しぬ | 渡辺悠月 |
| 23 | スケートの手袋をすぐ拾ひけり | 須藤臣人 |
| 24 | 何人も入らぬほどの枯野かな | 須藤臣人 |
| 25 | 雪棹をぐらぐら揺らし人を待つ | 渡辺悠月 |

順番 俳句

作者

1 それぞれの思い交差す初春かな

春日結菜

2 桜色染まる頬でご挨拶

春日結菜

3 春眠や光も届かぬ薄まぶた

原山結衣

4 髪を切り春の風押す競技場

戸谷美桜

5 靴擦れも足取り軽し春の風

春日結菜

6 三年でリレー選手の夏来たる

青木心結

7 夏シャツよ交代の笛学校で

原山結衣

8 飲み干した冷えた麦茶で生き返る

春日結菜

9 楽しむも学ぶも自由夏の果

春日結菜

10 ペン持たずぱたぱた仰ぐ晩夏かな

春日結菜

11 “頑張れ”に苛立ち覚えた溽暑の日

原山結衣

12 運動会友と囲んだお弁当

戸谷美桜

13 善光寺秋色ドレス身に纏う

春日結菜

14 思うままローファー鳴らす秋の暮れ

春日結菜

15 秋夕焼影だけ大きい今の我

原山結衣

16 零時過ぎ学ぶお供に落花生

春日結菜

17 ストーブか無音の世界をこわすのは

原山結衣

18 善光寺補修工事に歳惜しむ

春日結菜

19 進級を感じさせたる冬支度

春日結菜

20 空つ風我のため息運んでく

春日結菜

21 冬の星我の心は不透明

原山結衣

22 キットカット味わう受験の暇かな

青木心結

23 待春の教室に待つ試験監

戸谷美桜

24 あと一分氏名を書き足す受験生

青木心結

25 春の宵別れ惜しんで暗くなり

春日結菜

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 特急の終着静か冬茜 | 岡村 潤 |
| 2 | おれづみや子は顔の肉集め泣く | 中村 治樹 |
| 3 | ダイヤルの八の固さや藤の花 | 浅香 優 |
| 4 | 新宿と代々木近くて石鹼玉 | 浅香 優 |
| 5 | 掛け軸の影広がりぬ春の夕 | 岡村 潤 |
| 6 | 蝶々舞ふレジャーシートを広げれば | 豊原 一誠 |
| 7 | 暖かやらずめの影の跳ぬるさま | 豊原 一誠 |
| 8 | アスパラガス育つ下校チャイムとほく | 中村 治樹 |
| 9 | 炎帝や浮きの触れたり離れたり | 浅香 優 |
| 10 | 夏雲やタイプライター叩く音 | 浅香 優 |
| 11 | 目の蒼き夏野の鹿と出逢ひけり | 中村 治樹 |
| 12 | 友を待つ人の手にあるラムネかな | 浅香 優 |
| 13 | 桜桃ほどに坊の指むちり | 岡村 潤 |
| 14 | 鷺草や初めて簪挿す女 | 岡村 潤 |
| 15 | マグカップ夜長に一人残されて | 佐藤 拓智 |
| 16 | 秋茄子土偶の足のまるまると | 岡村 潤 |
| 17 | 兄妹の同じ顔する花野かな | 佐藤 拓智 |
| 18 | 赤蜻蛉遊具の網に止まりけり | 豊原 一誠 |
| 19 | 靴洗ひつつ笑ふ子や暮の秋 | 永所 勇人 |
| 20 | 秋惜しむポケットに葉を忍ばせて | 佐藤 拓智 |
| 21 | 道の名は江戸より小春日和かな | 中村 治樹 |
| 22 | 竹馬や少しだけ先生になり | 永所 勇人 |
| 23 | 血の混じる喉に脈あり寒稽古 | 岡村 潤 |
| 24 | 青写真兄とレトルトカレー食ふ | 永所 勇人 |
| 25 | 雨戸開け朝日に塵や年新た | 中村 治樹 |

10

鬼のゐぬ世

岡山県立岡山
朝日高等学校順番
俳句

作者

- | | | | |
|----|-------------------|----|-----|
| 1 | 桜まじホットケーキの泡はじけ | 寺石 | 有希奈 |
| 2 | ひとりでにめくれる頁春シヨール | 寺石 | 有希奈 |
| 3 | 弔ひの果つ蝶の羽化はじまりぬ | 寺石 | 有希奈 |
| 4 | 春月や日記の文字は角張つて | 末廣 | 陽奈 |
| 5 | 水馬みづの記憶を尋ねけり | 平野 | 直太郎 |
| 6 | 扁額の古傷あらふ五月雨 | 那須 | 颯太 |
| 7 | 志望校変へたくなって天道虫 | 吉田 | 有希 |
| 8 | クーラーの風よそよそし参観日 | 末廣 | 陽奈 |
| 9 | 屋上の白き梯子や雲の峰 | 吉田 | 有希 |
| 10 | 炎昼や駅のホームを持てあまし | 平野 | 直太郎 |
| 11 | 浮いて来い書いては消せるラブレター | 末光 | 由季 |
| 12 | 空蟬やみんな失恋経験者 | 末廣 | 陽奈 |
| 13 | パトカーのそろり追ひ越す金魚売 | 吉田 | 有希 |
| 14 | 桃洗ふ鬼のゐぬ世の空あをし | 平野 | 直太郎 |
| 15 | 蚯蚓鳴くシャッターに描くスプレー画 | 平野 | 直太郎 |
| 16 | お下がりのチャリンコ漕いでゐる良夜 | 平野 | 直太郎 |
| 17 | 原発のデモの隊列櫟の実 | 那須 | 颯太 |
| 18 | 唐辛子上皿天秤振り切れて | 吉田 | 有希 |
| 19 | 鴟日和子ども歌舞伎の初舞台 | 末廣 | 陽奈 |
| 20 | 秋うらら粘土を分くる糸の張 | 末廣 | 陽奈 |
| 21 | 枯木星残り二本の当たり籤 | 那須 | 颯太 |
| 22 | 寒禽のぱうぱう鳴ける模試の朝 | 平野 | 直太郎 |
| 23 | ホットココア冷めオセロは白ばかり | 末光 | 由季 |
| 24 | 道場に羽打ちの響く初稽古 | 平野 | 直太郎 |
| 25 | 深雪晴凶のみくじを固く結ひ | 末光 | 由季 |

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|-------|
| 1 | 春の風不安の影も引いている | 佐々木美月 |
| 2 | しみりと落ち着いていた朧月 | 佐々木美月 |
| 3 | 窓からの桜便り懐かしむ | 大友のん |
| 4 | 桜東風まだ寂しさが残る風 | 阿部美咲 |
| 5 | 五羽の大鳥鮮やかに岩燕 | 佐藤風紗 |
| 6 | 新しい水の風景花吹雪 | 佐藤風紗 |
| 7 | 心ごと海へのバス揺られてる | 佐々木美月 |
| 8 | 向日葵が下から見上げる澄んだ空 | 大友のん |
| 9 | 手の甲で涙を拭いた甲子園 | 大友のん |
| 10 | 木の花も揺れてと願う油照り | 阿部美咲 |
| 11 | 全盛期蝉を待つてる日盛りと | 阿部美咲 |
| 12 | たいていは忘れてしまふ夏の宵 | 佐藤風紗 |
| 13 | 目の前にある風景の蝉時雨 | 佐藤風紗 |
| 14 | 定めない心の揺れに秋の雨 | 佐々木美月 |
| 15 | 秋風が夕日と共に染みてゆく | 大友のん |
| 16 | 秋麗景色を土産帰り道 | 紺野栄理香 |
| 17 | おとなども楽しめてるか秋の声 | 紺野栄理香 |
| 18 | 後ろ影紅葉かつ散るさよならと | 紺野栄理香 |
| 19 | 菊日和青と緑の真ん中に | 阿部美咲 |
| 20 | 冬ざれの心寒さや窓の顔 | 橋浦紗綾 |
| 21 | 風の中木々に優しき冬日向 | 橋浦紗綾 |
| 22 | 鉢植えの冬椿にも会釈して | 橋浦紗綾 |
| 23 | 今は無き星も瞬く冬銀河 | 横山芽 |
| 24 | 冬の日や金平糖の白い角 | 横山芽 |
| 25 | オリオン座ロマンチックに空飾る | 横山芽 |

首をくくる

岩手県立水沢
高等学校B

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|------|
| 25 | 葱の香の口から消えぬ孤食かな | 引地佳歩 |
| 24 | 冬の星午前零時のらあめん屋 | 高橋生楽 |
| 23 | 鐘凍る地蔵の頭に布一つ | 及川真聖 |
| 22 | 製紙工場の煙やクリスマス | 及川華凜 |
| 21 | 風籠ホットミルクの膜厚し | 引地佳歩 |
| 20 | のぞいても傷ありの顔氷池 | 高橋生楽 |
| 19 | 梨剥けば生命線の潤いぬ | 引地佳歩 |
| 18 | 黄葉や妹の手にやけど跡 | 高橋生楽 |
| 17 | 秋風鈴祖父の寝言に返事する | 及川華凜 |
| 16 | 外人の耳ひぐらしをノイズとす | 及川真聖 |
| 15 | 赤信号渡ってはしゃぐ子青蜜柑 | 及川真聖 |
| 14 | 残暑ひきずって旧校舎の廊下 | 及川華凜 |
| 13 | 毎日が晴れの絵日記夏の果て | 及川真聖 |
| 12 | エコバッグ畳まず熱帯夜に一步 | 及川華凜 |
| 11 | 首絞めるごとく押しこむラムネ玉 | 引地佳歩 |
| 10 | 超新星爆発したような毛黴 | 引地佳歩 |
| 9 | 風死すや人形のいるゴミ置き場 | 引地佳歩 |
| 8 | 途中棄権して炎天の底にいる | 引地佳歩 |
| 7 | 蟻を踏む無垢という名の罪もある | 引地佳歩 |
| 6 | スランプも終わってしまいそうな春 | 引地佳歩 |
| 5 | 義経の声が聞こえる春月夜 | 及川華凜 |
| 4 | 風船に空気のおふれ恋心 | 及川華凜 |
| 3 | 逆立ちの手に春の野のやわらかさ | 引地佳歩 |
| 2 | 夏蜜柑を裂く明日は晴れらしい | 及川華凜 |
| 1 | 春暁や新校舎には石銘板 | 及川真聖 |

神奈川県立横

浜翠嵐高等学

校

順番 俳句

作者

1 うららかや床屋の多き町に住む

河合菜々子

2 ブラウニーの気泡潰せば春暖か

新堀竹子

3 閑職と言つてはたらく祖父日永

河合菜々子

4 テインパニの鳴動春塵吹き飛ばす

吉岡心晴

5 春昼やパキリポキリと屈伸す

吉岡心晴

6 石ころを避けて続ける蟻の道

中山一詩

7 風薫る絆創膏の痕白し

吉岡心晴

8 ふっと見た手の震へをりソーダ水

新堀竹子

9 一番に自殺のニュース油照

清水風希

10 大嫌いになりそうなほど草いきれ

新堀竹子

11 夕風のスポーツバッグ浜に置き

森田真奈

12 ひりひりと頭皮の日焼シャンプーす

森田真奈

13 伝票に大盛り並ぶ夏の果

河合菜々子

14 塾サボって花火大会行ったから

新堀竹子

15 かなかなや溶けあひさうなアスファルト

新堀竹子

16 窓越しの歓声に見る鰯雲

清水風希

17 爽やかやあれはロイター板の音

新堀竹子

18 スコップに蒞ことごとく真っ二つ

新堀竹子

19 おはようが飛び交う中や曼殊沙華

森田真奈

20 目の合うて止める鼻唄そぞろ寒

吉岡心晴

21 冬の朝結露に触れて目を覚ます

中山一詩

22 凧や遅延知らせる掲示板

清水風希

23 コロッケ三つ肉屋に買うて日短

清水風希

24 いつ見ても「空」の表示や北風

中山一詩

25 釣りたてを剥ぐ太き腕冬の海

河合菜々子

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|------|
| 1 | 教会の長椅子低し末枯るる | 濱野佑太 |
| 2 | 滑らかに鍵の入りたる十三夜 | 島田道峻 |
| 3 | 将棋指しゐて新蕎麦のやつて来る | 島田道峻 |
| 4 | 漬物石すたとんと置いて秋深し | 北川将磨 |
| 5 | 寒すゝき巻広告に杭打たれ | 島田道峻 |
| 6 | 早退に下駄箱広し冬ざくら | 濱野佑太 |
| 7 | 空際の大樹老いたる雪野かな | 張澤埴 |
| 8 | 炭の番長し少年彫り深し | 北川将磨 |
| 9 | 独房のいつも通りの掃納 | 北川将磨 |
| 10 | 初電車まぶしき席を選びけり | 濱野佑太 |
| 11 | 冬萌や草の日記はびかぴかと | 張澤埴 |
| 12 | あれは凧なのか壊れた鳥なのか | 島田道峻 |
| 13 | 切り絵の目すこし角張る木の芽時 | 濱野佑太 |
| 14 | 馬宿の丁番赫し霾ぐもり | 金子晃 |
| 15 | 顎骨がつつちふるにとんがつてゐる | 島田道峻 |
| 16 | お彼岸や押せばリモコン固く鳴る | 濱野佑太 |
| 17 | ヒヤシンス赤子の足を手にのせて | 濱野佑太 |
| 18 | 食べものに切れ目や初夏のおままごと | 濱野佑太 |
| 19 | 湯上がりの靴下かたし夏蜜柑 | 濱野佑太 |
| 20 | アイスコ―ヒー続々人の来る岩場 | 島田道峻 |
| 21 | 羽蟻の夜玩具の電池外しけり | 金子晃 |
| 22 | 泥の手のまま鉄棒や大西日 | 島田道峻 |
| 23 | 電車内で汗をつけ合ふ油照 | 張澤埴 |
| 24 | 水銀のせり上がりゆくラ・フランス | 金子晃 |
| 25 | 飛行船つついてみだし秋日和 | 濱野佑太 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|------|
| 1 | 味失せたチューイングガム冬紅葉 | 石松孝埼 |
| 2 | 朝十時障子の穴に吾子の指 | 原田結菜 |
| 3 | 「もういいかい」まだ遊ばせて帰り花 | 小村芽生 |
| 4 | 凍空やカーブミラーにひび一つ | 堀越悠花 |
| 5 | ビル群に飲まれて一人冬の朝 | 石松孝埼 |
| 6 | ウィンカーの途切れる音や寒昴 | 堀越悠花 |
| 7 | 冬ざれや消しゴムのカス床に捨て | 小村芽生 |
| 8 | 街路樹の横拾われぬ紙マスク | 原田結菜 |
| 9 | 懐炉嗅ぐ子犬の爪や欠けており | 堀越悠花 |
| 10 | ざらざらと急須の如く手足荒る | 石松孝埼 |
| 11 | せんべいのパリと乾きて落葉焚 | 温品翔天 |
| 12 | 大根の葉ははさはさと吹かれけり | 温品翔天 |
| 13 | 窃盗犯不起訴になりて山眠る | 堀越悠花 |
| 14 | モナリザの口角下がる冬旱 | 堀越悠花 |
| 15 | オリオンやほつれた袖の糸で成る | 小村芽生 |
| 16 | ポスターの失せたる顔や冬の暮 | 堀越悠花 |
| 17 | 擦っても消えぬボードや冬の月 | 石松孝埼 |
| 18 | メゾフォルテ知らぬ私と冬北斗 | 石松孝埼 |
| 19 | パソコンを氷に変えた雪景色 | 温品翔天 |
| 20 | 爪切りで冬三日月を作りおり | 原田結菜 |
| 21 | 黄金比冬三日月はつゆ知らず | 石松孝埼 |
| 22 | カメレオン目玉を回し春の朝 | 堀越悠花 |
| 23 | 歯磨き粉戸棚に一つ春の夜 | 石松孝埼 |
| 24 | スリッパの裏はがれおり朧月 | 石松孝埼 |
| 25 | 朝霞バイリンガルに懂れる | 堀越悠花 |

昨日虫を殺しました

岩手県立水沢
高等学校A

順番
俳句

作者

1 春光や蛙の石像撫でる友

菊地るな

2 春日傘回して母はコンビニへ

高野晴

3 小指にも鉛筆の跡日永かな

中澤美賀

4 山笑うお土産袋の紐が切れ

中澤美賀

5 母校の解体現場残花かな

菊地るな

6 ゲジゲジに肝まで冷やす水辺かな

菊池悠斗

7 巢に帰り母の顔する夏燕

中澤美賀

8 自動ドアに吸い込まれてく金亀子

菊地るな

9 愛鳥日ポスターに赤い字乗せる

高野晴

10 母の手より受けし胡瓜のトゲ刺さる

中澤美賀

11 上の句も捻り出さずに秋を待つ

菊池悠斗

12 押し入れの肩たたき券秋深し

中澤美賀

13 秋の蚊の刺せど抜けずに留まれり

菊池悠斗

14 秋の夜や焼香の匂い取れぬまま

中澤美賀

15 秋暑し母の背中の爪の傷

中澤美賀

16 目印は菊の花なり祖母の墓

菊地るな

17 毬栗を踏んだか自転車パンク

高野晴

18 足裏に虫の死体や秋高し

中澤美賀

19 木枯らしに急かされ進む通学路

菊地るな

20 我が声の一直線なる冬田かな

中澤美賀

21 冬草や行方不明者減らぬまま

菊地るな

22 寒北斗物置に鬼の面あり

中澤美賀

23 枯蓮の沈みて残る星の影

菊池悠斗

24 目盛の消えた定規や氷柱落つ

中澤美賀

25 障子の穴より朝日猫の爪痕

中澤美賀

石川県立金沢
錦丘高等学校

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|--------|
| 1 | 風光るスニーカー鳴る通学路 | 高田 有希 |
| 2 | 地藏立つシャッター街に下萌ゆる | 中村 文哉 |
| 3 | 帰り道永き日ほどの距離があり | 市嶋 真ノ介 |
| 4 | 廃村や雛人形に刺す瞳 | 中村 文哉 |
| 5 | 大喧嘩寄り道先のタンポポを | 市嶋 真ノ介 |
| 6 | 散る花や制服のちがう先輩 | 松澤 歩花 |
| 7 | 軽トラの荷台が玉座春の土 | 松澤 歩花 |
| 8 | ぶらんこや祖母と揃えた靴の音 | 松澤 歩花 |
| 9 | 芋虫を踏み遊ぶ背のランドセル | 松澤 歩花 |
| 10 | 夏立つやあぜ駆け抜けるはしやぎ声 | 松澤 歩花 |
| 11 | 畦道は跣の跡で延びてゆく | 市嶋 真ノ介 |
| 12 | 海蛸いけないことをするみたい | 松澤 歩花 |
| 13 | 獣道その茂みの姫百合よ | 中村 文哉 |
| 14 | 駅前角ネーブルと古時計 | 中村 文哉 |
| 15 | 夏果やコンビニクレープかじる夜 | 松澤 歩花 |
| 16 | ひっじ雲見つめる先は運転席 | 高田 有希 |
| 17 | 三日月や野草を跳ねるボカロの歌 | 松澤 歩花 |
| 18 | 足元の小石がゆがむ時雨かな | 高田 有希 |
| 19 | 初冠雪スクランブルの人は見ず | 中村 文哉 |
| 20 | 手袋やどこも寄らない帰り道 | 高田 有希 |
| 21 | からっ風不燃ごみって拾わない | 中村 文哉 |
| 22 | セーターや肩触れて待つ青信号 | 高田 有希 |
| 23 | 足跡の後を追うのは雪明り | 高田 有希 |
| 24 | 山道や地藏の笠の穴の雪 | 中村 文哉 |
| 25 | 河川敷見知らぬ冬の星たちの | 市嶋 真ノ介 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|------|
| 1 | 足の指のひっそり伸びる臙月 | 後閑啓太 |
| 2 | やがて売る祖父の畑や蛭汁 | 植原拓巳 |
| 3 | 天ぷらの衣の薄き彼岸かな | 植原拓巳 |
| 4 | 鳥雲に入りて三つ編み解きけり | 植原拓巳 |
| 5 | 春暁の机の螺子はなめてをり | 富岡優月 |
| 6 | 手翳せば水を呑み込む金魚かな | 富岡優月 |
| 7 | 風薫る今てつぺんの観覧車 | 後閑啓太 |
| 8 | 人類に退化の気配ハンモック | 植原拓巳 |
| 9 | 落丁を見つけて夏の水しづか | 植原拓巳 |
| 10 | 警官の笑窪の深し夏の蝶 | 富岡優月 |
| 11 | 夕立の真只中のユニフォーム | 後閑啓太 |
| 12 | 胡瓜切る着信音の鳴ったまま | 植原拓巳 |
| 13 | トロフィーの台座に埃星祭 | 木村陽翔 |
| 14 | 学校へ脚のそれぞれ草の花 | 大井田智 |
| 15 | 天高し笛に崩るるピラミッド | 後閑啓太 |
| 16 | 万華鏡回せばそよぐ稲田かな | 大井田智 |
| 17 | 星月夜なら畦道をすれ違ふ | 植原拓巳 |
| 18 | 連雀や丸を書き込む世界地図 | 大井田智 |
| 19 | 夜食とる正座を軽く崩しけり | 植原拓巳 |
| 20 | 姿見に残る指紋や鐘凍る | 植原拓巳 |
| 21 | 着膨れてたまごサンドを頬張りぬ | 植原拓巳 |
| 22 | 立冬の膝に消毒液の泡 | 大井田智 |
| 23 | 配達の音澄む朝や白鳥来 | 後閑啓太 |
| 24 | 冬深しジャングルジムに静電気 | 木村陽翔 |
| 25 | 夜咄の両目は横に伸びてをり | 木村陽翔 |

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------|--------|
| 1 | 靴擦れは綿菓子の色夏はじまる | 仲間涼乃 |
| 2 | 葉桜や大きく反りしエビフライ | 仲間涼乃 |
| 3 | 空蟬のまだ柔らかく膨らめり | 仲間涼乃 |
| 4 | 朝採れのメロン拭はず切り分ける | 佐久間健一郎 |
| 5 | 冷房車それぞれに目を見開きつ | 新妻美佳 |
| 6 | 水中花直線の夜を沈みゆく | 知名凜音 |
| 7 | 朝焼のアトリエに影流れつく | 新妻美佳 |
| 8 | 花びらの吹き寄せられて蟻の道 | 新妻美佳 |
| 9 | 懐かざる翅醒めたるや露の玉 | 知名凜音 |
| 10 | シロップは底へ降りつき花木槿 | 新妻美佳 |
| 11 | いとど跳ぶ螺旋階段塗りかはり | 佐久間健一郎 |
| 12 | おほいなる影蒼々と糸瓜かな | 佐久間健一郎 |
| 13 | 埋もれたるいろ返しつっきのこ飯 | 仲間涼乃 |
| 14 | 赤蕪の餡とつぷりと照り纏ふ | 仲間涼乃 |
| 15 | 短日や高速船の潮の窓 | 仲間涼乃 |
| 16 | 山眠る雲に遅るる羊の歩 | 佐久間健一郎 |
| 17 | 木漏れ日に弄ばれて冬の蠅 | 仲間涼乃 |
| 18 | 群羊の真ん中暗し帰り花 | 佐久間健一郎 |
| 19 | 初東風や嘶き遠く荒ぶれる | 知名凜音 |
| 20 | 父と行く若白髪の子漁初め | 仲間涼乃 |
| 21 | 下町の侘助今日を大切に | 仲間涼乃 |
| 22 | 眼球の熱き闇夜や落椿 | 知名凜音 |
| 23 | 水底は咲いて蛙の国となる | 知名凜音 |
| 24 | なづな咲く光こぼるる読み聞かせ | 知名凜音 |
| 25 | 春光は睫毛の中へおさめられ | 新妻美佳 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-----------------------------------|-------|
| 1 | 自転車のかごに草餅乗せてをり | 雨谷悠希 |
| 2 | 遠足の列を赤信号が割る | 西山文乃 |
| 3 | 避雷針はビルの触覚桜餅 | 森有沙 |
| 4 | ワカメにくるまつて国を出たる船 | 小笠原駒子 |
| 5 | 美しきものみな腐りやすし蝶 | 福田理紗 |
| 6 | 永久 <small>とこしへ</small> に地球てふ箱庭にをり | 惠木陽菜 |
| 7 | 選挙カー追ひかけてゐる夏樂し | 小笠原駒子 |
| 8 | かちやかちやとゼリー追ひかけ回しけり | 森有沙 |
| 9 | メガネ屋のメガネに映る揚花火 | 福田理紗 |
| 10 | 夏椿命にしがむ悲劇もの | 木村麻里 |
| 11 | 幾億の電球垂れてゐる雨月 | 森有沙 |
| 12 | 双子には双子の孤独天の川 | 福田理紗 |
| 13 | ピーナツバターを塗りて霧の家 | 雨谷悠希 |
| 14 | 秋晴れや海辺の墓のたたずまひ | 惠木陽菜 |
| 15 | 走馬灯候補のなくて昼の月 | 福田理紗 |
| 16 | 酔ふ人の口笛上手し秋の風 | 小笠原駒子 |
| 17 | 月食や灯りつけやがった隣家 | 西山文乃 |
| 18 | ローファーに集まつてくる兎たち | 木村麻里 |
| 19 | 石像の膝つややかに初時雨 | 森有沙 |
| 20 | 鍵が開く音凍てにけり父帰る | 木村麻里 |
| 21 | 二十歳にはおでんを好きになれるはず | 西山文乃 |
| 22 | コーラもファンタも透かせば赤や大晦日 | 小笠原駒子 |
| 23 | 贅沢に半紙使ひて山眠る | 雨谷悠希 |
| 24 | 薄雲を塗り重ねゆくやうな風 | 雨谷悠希 |
| 25 | セロリスープ火星移住の夢をみる | 惠木陽菜 |

順番 俳句

作者

1 発言力偉大な力弥生山

小幡廣洋

2 カタパルト振り向く姿春雨

佐々木怜

3 ゼンマイを風呂敷包み盗人に

菅野陽大

4 霧の濃い悪夢は巡り終わらない

小幡廣洋

5 アルタイル大地へ降下星占い

佐々木怜

6 選ばれた人と文物五月山

小幡廣洋

7 線路沿い快速調山繭

佐々木怜

8 パルテノン息が詰まる閑古鳥

佐々木怜

9 五月富士樹海の啓蒙傾聴す

小幡廣洋

10 西遊記グローバル化する月見草

佐々木怜

11 怒号飛ぶ親子の絆流れ星

佐々木怜

12 夏の世に江戸川乱歩降臨す

菅野陽大

13 無事願う身体検査ブルーベリー

齋賢太郎

14 夏休み最後に用意避雷針

菅野陽大

15 宵闇に被される街清潔に

齋賢太郎

16 人間の本性見たり秋の空

佐々木怜

17 芝生敷き舞い上がりけり枯れ落ち葉

佐々木怜

18 月光の血の意志のため獣狩り

小幡廣洋

19 スラスタ―帰路変更秋時雨

佐々木怜

20 たけのこが下水工事の穴の中

菅野陽大

21 成人祭「パーセント」で巡り合う

齋賢太郎

22 お賽銭ふわっと投げるコロッセオ

佐々木怜

23 念じてた僕の心臓冬眠す

小幡廣洋

24 受験期に終戦間際ヘラクレス

菅野陽大

25 どこまでも無垢に留まる青写真

小幡廣洋

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|--------------------|-------|
| 1 | 清明の白鳳門や三年目 | 平原隆之介 |
| 2 | トロンボーンより出づる春一番 | 澤田彩花 |
| 3 | 歓声のライトスタンド夏近し | 町美海 |
| 4 | 驟雨過ぐ古木のかをる廊下かな | 平原隆之介 |
| 5 | 琵琶湖見る父の笑顔やアロハシヤツ | 西原乃愛 |
| 6 | 「あと一人、」炎ゆ縦縞のユニフォーム | 町美海 |
| 7 | 夏の夕部活納めの焼き肉屋 | 西原乃愛 |
| 8 | 影伸ぶる釣月軒や残り蟬 | 平原隆之介 |
| 9 | 水澄むや波紋四つで沈む石 | 平原隆之介 |
| 10 | 焼きたてのパン頬張つて秋半ば | 平原隆之介 |
| 11 | イヤホンの奥の陰ぐち秋霰雨 | 平原隆之介 |
| 12 | 虫時雨夜の果てまでを覆ひけり | 平原隆之介 |
| 13 | 弦音澄む夜や残心の五秒間 | 平原隆之介 |
| 14 | 賞状を掴む手細し冬麗 | 平原隆之介 |
| 15 | 底冷えの廊や足音の研す | 平原隆之介 |
| 16 | 共テまで残り二十日や日記果つ | 平原隆之介 |
| 17 | 伊勢参り前髪直しバスを待つ | 西原乃愛 |
| 18 | 手作りの御守りを手に受験生 | 澤田彩花 |
| 19 | 雪暗や#共テと打つ右手 | 平原隆之介 |
| 20 | 冬三日月や終点のアナウンス | 平原隆之介 |
| 21 | 雪晴の庭や弟の声変わり | 町美海 |
| 22 | 梅ふふむ母に教はる親子井 | 西原乃愛 |
| 23 | 風光る木製家具の並ぶ店 | 町美海 |
| 24 | 山笑ふ弾む心を大学へ | 澤田彩花 |
| 25 | 高校卒業す雨匂ふ上野 | 平原隆之介 |

順番
俳句

作者

1 花盛り心に置いて消えていく

佐藤静紅

2 グラウンド声援と共に風光る

内藤愛里

3 拝啓未来のわたし春の使い

内藤愛里

4 木の芽時ふりかえって女の子

神谷怜奈

5 夏座敷光る粒は甘い味

神谷怜奈

6 信号の点滅眩む半ズボン

神谷怜奈

7 〇円じゃ夢かえぬ夏の夜

佐々木美来

8 目潤う歪んだギターで朝風よ

日下凜

9 シトロンやスキップしてくれリアリスト

日下凜

10 カモミール朝日を浴びてまた芽吹く

佐藤静紅

11 当たり前流れる毎日天の川

内藤愛里

12 溺れそう誤魔化す夜に二つ星

日下凜

13 秋惜しむ満足なんてしていない

佐々木美来

14 秋麗空一面に咲く紅葉

内藤愛里

15 コスモスが夕焼けの帰路に咲いている

佐々幸

16 車窓から見える紅葉が美しい

佐々幸

17 音を切り主人公しようオリオン座

日下凜

18 帰り花他の目厭わず咲き誇る

佐藤静紅

19 舵を切る月が夜を差す冬將軍

佐藤静紅

20 朝起きて窓から見える雪景色

佐々幸

21 雪の日に朝からはしやぎ大遅刻

佐々幸

22 七五三あっちとこっちどっちなの

神谷怜奈

23 冬の朝明日やろうは馬鹿野郎

佐々木美来

24 大晦日俺はもってる夢がある

佐々木美来

25 愛し人年越詣願う手に

内藤愛里

順番 俳句

作者

1 亀鳴くや極彩色の家を描く

米澤 颯人

2 吹き荒れる春一番にあと押され

瀬部 雪鶴奈

3 春眠や深く深くへ落ちていく

清水 舵夫

4 朝東風よ運んでほしい我が心

清水 舵夫

5 電飾は鈴懸の花に寄生す

中西 史

6 入学式我が子の背中に涙して

瀬部 雪鶴奈

7 椅子寄せてチャイム鳴るまで夏蜜柑

米澤 颯人

8 この筆で紙裂かんとす半夏生

米澤 颯人

9 紫陽花やなぞりゆく瞼の円ら

米澤 颯人

10 炎天にウォーターボーイズ跳躍す

米澤 颯人

11 潮風やプールの底の苔黒し

米澤 颯人

12 軍港にオカリナの子や夜の秋

米澤 颯人

13 湯けむりの尾を追いかけて流れ星

中西 史

14 月が溶け空も明るくなりました

中西 史

15 青一つ空澄むを見る我一人

瀬部 雪鶴奈

16 秋晴れに鳥と雲の名画伯

瀬部 雪鶴奈

17 横浜の秋や新書へ日照雨

米澤 颯人

18 国を発つ朝、鴨の尾も白く

中西 史

19 陽の光紛るる鳥は赤猿子

清水 舵夫

20 初雪やテニスコートへ学ラン投ぐ

米澤 颯人

21 小春日や黒板にバースデーの跡

米澤 颯人

22 ミサンガを濡らしたままで年を越す

中西 史

23 十二分先に年越す吾の時計

中西 史

24 月光に蒼いガリガリ君冴ゆる

中西 史

25 ドアの奥香り高きは柚釜かな

清水 舵夫

立教池袋高等学
校・東京家政学
院高等学校

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | 春風に口髭を乱されてゐる | 小林佳武以 |
| 2 | 教室の重き鍵盤木の芽吹く | 武富愛音 |
| 3 | 春寒し屋上は管うねる場所 | 小林佳武以 |
| 4 | 骨嚙むに右利きの犬雪解風 | 大沼真木人 |
| 5 | 大屋根に猫の集へる花曇 | 大沼真木人 |
| 6 | 白鷺とまりて聖蹟桜ヶ丘なる | 武富愛音 |
| 7 | 目を細めれば夏が私を閉じ込める | 武富愛音 |
| 8 | 白玉を口でふやけるまで遊ぶ | 小林佳武以 |
| 9 | 人混みに旧友探したる祭 | 川本伊吹 |
| 10 | 耳に蝉住み始めるに寝転んで | 武富愛音 |
| 11 | 水槽の海老と目の合ふ夏の宵 | 川本伊吹 |
| 12 | 夏草に埋もれし犬の名を叫ぶ | 武富愛音 |
| 13 | 皿洗ひ終へて一口分の梨 | 栗山輝 |
| 14 | 蘭の香を教ふるための墓参り | 川本伊吹 |
| 15 | 文字の間の昏き看板秋涼し | 大沼真木人 |
| 16 | ワイパーにかへで紅葉のふたつみつ | 小林佳武以 |
| 17 | 番台に林檎食り食つてをり | 栗山輝 |
| 18 | 雨粒の密に流るる一葉忌 | 栗山輝 |
| 19 | 短日の葉呑みこみきらぬ喉 | 川本伊吹 |
| 20 | 剃刀に石鹸残る小春かな | 小林佳武以 |
| 21 | 受箱に親指ほどの飾り松 | 大沼真木人 |
| 22 | 書初の筆を落とせば勇ましき | 武富愛音 |
| 23 | 寒さにも高値のつきさうな旅館 | 川本伊吹 |
| 24 | 唐揚げの「唐」よく響く雪催 | 栗山輝 |
| 25 | 冬すずめアンテナに水溜まりたる | 大沼真木人 |

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|------|
| 1 | 春星と交信できる場所といふ | 大竹七生 |
| 2 | 雨の日の流水ならば見にゆかむ | 赤松優 |
| 3 | 薬玉のなかは混み合ふ卒業歌 | 辻村幸多 |
| 4 | ふらこと同じ揺らぎに首と息 | 栗本拓実 |
| 5 | 星朧てふ喧嘩のあとの口ごもり | 栗本拓実 |
| 6 | 犬の鼻押し付けてくる春の湖 | 三宅爽太 |
| 7 | 鶏小屋のささやかな樋茄子の花 | 辻村幸多 |
| 8 | 鯉跳ねて交番開きつ放しなり | 辻村幸多 |
| 9 | けふ切らるる髪を整へ野菊かな | 岡部優司 |
| 10 | ナイターの父のビールを捨てにゆく | 岡部優司 |
| 11 | 靴紐を結ぶ日陰を探しけり | 赤松優 |
| 12 | 夏終る深く潜つてゐるままに | 大竹七生 |
| 13 | かんばせのやうな花火をつぎつぎと | 大竹七生 |
| 14 | 鶏頭花買ひ足す物を多く選り | 岡部優司 |
| 15 | 朝寒や手のひらほどの花鉄 | 辻村幸多 |
| 16 | 長き夜の舌持て余す口のなか | 赤松優 |
| 17 | 覗き込む夜寒の窓の厚さかな | 大竹七生 |
| 18 | 立冬の痰の綺麗な黄色かな | 赤松優 |
| 19 | 師の行きし後を時雨の音が追ふ | 岡部優司 |
| 20 | 笛ふきの吸ふにも音よ冬薔薇 | 三宅爽太 |
| 21 | 保険証忘れてポインセチアへ目 | 辻村幸多 |
| 22 | 鍋の牡蠣縮んでゆくを眺めをり | 三宅爽太 |
| 23 | 黒い人ばかりゐるなり除夜の駅 | 大竹七生 |
| 24 | 自転車より破魔矢の鈴の響きかな | 大竹七生 |
| 25 | スケートリンクまだ人をらず鳥をらず | 栗本拓実 |

群馬県立高崎
女子高等学校

順番 俳句

作者

1 薄氷の回つて星はまだ遠し

秋松咲千子

2 紅梅や舌は飴玉裏返す

奥田羊歩

3 漢方をゼリーと飲んで沈丁花

齋藤葵

4 石段を上がる黒猫桜東風

齋藤葵

5 春天を触るるサーカス団の歌

齋藤葵

6 ポケットティッシュうちちと開けて鳥曇

奥田羊歩

7 踏切の矢印消ゆる初音かな

秋松咲千子

8 美容師に結はるる髪や春夕立

小川橙子

9 夏の日の水糊を傾けてをり

奥田羊歩

10 恐竜が飛び出す絵本雲の峰

奥田羊歩

11 バナナ剥きつづけいつの間にかひとり

小川橙子

12 将来をゆらゆら語る冷奴

吉田百花

13 うみうしのやうな靴下片かげり

吉田百花

14 横向きに入れる百円うるこ雲

奥田羊歩

15 木犀の香りポイント二倍デー

奥田羊歩

16 梨の実の半透明の設計図

小川橙子

17 仏壇のほひのしをり花すゝき

吉田百花

18 晩秋や湯船の栓の鎖蹴る

奥田羊歩

19 クッキーのドレンチェリーに冬日かな

奥田羊歩

20 消防車枯れかけの花ばかり買ふ

小川橙子

21 マフラーを長々と編む車椅子

吉田百花

22 罵つて喉の収縮冬の暮

小川橙子

23 錦絵の暴るる龍や蔵開

齋藤葵

24 引き摺つた跡を汐みづ冬ざるる

小川橙子

25 耳たぶを揉んでストーブから離る

秋松咲千子

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|------|
| 1 | 草笛やわれいまここに存在す | 倉持美香 |
| 2 | ヒメジョオン煌びやかなる音で揺れ | 倉持美香 |
| 3 | 蜂蜜の炭酸注ぐ日の梯子 | 藤枝杏里 |
| 4 | つとと落つ僕の冷や汗アイスティー | 藤枝杏里 |
| 5 | 紫陽花が枯れて落ちたらまた来ます | 砂長陽咲 |
| 6 | 夏柑の家や規制線揺れる | 藤枝杏里 |
| 7 | 白南風やシャトルがぐんと伸びてゆく | 金光舞 |
| 8 | ラ・フランス狂ったギターかき鳴らす | 藤枝杏里 |
| 9 | シーグラス澄む秋に浮くうろこ肌 | 金光舞 |
| 10 | 月光や鮭が光を食べている | 砂長陽咲 |
| 11 | 神立やプレートたちがぶつかって | 金光舞 |
| 12 | 初恋や蝶々雲の重さ増す | 砂長陽咲 |
| 13 | 毛布がさらりマーメイドになってみる | 金光舞 |
| 14 | 綿虫や天使の羽のごときもの | 倉持美香 |
| 15 | 北おろし悲鳴を上げるビルの群れ | 倉持美香 |
| 16 | 鼻歌の消えて哀しき春の空 | 砂長陽咲 |
| 17 | 春雨や亡き曾祖母の息遣い | 金光舞 |
| 18 | 被災地に向かつて息を石鹼玉 | 倉持美香 |
| 19 | 擦り切れた靴の踵や春疾風 | 藤枝杏里 |
| 20 | 春の夜「また会いたい」を塞ぐキス | 砂長陽咲 |
| 21 | 雲落ちて牛となりたる夏野かな | 藤枝杏里 |
| 22 | 綿菓子面白がいいです夏の空 | 砂長陽咲 |
| 23 | 夏雲や校舎を覆い尽くす海 | 金光舞 |
| 24 | 昼顔や予報外して迎え待つ | 倉持美香 |
| 25 | アスファルト焼ける入道雲の羽化 | 藤枝杏里 |

順番
俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|------|
| 1 | 兄妹の空席となる炬燵かな | 菅谷知世 |
| 2 | 桜舞う行ってらっしやい祖母の声 | 森ほのか |
| 3 | 春疾風ブレザーの兄の背や遠き | 菅谷知世 |
| 4 | 新学期おさがり惜しむ思い出と | 武田希美 |
| 5 | 春暖や愛おしく寝る川の字よ | 森ほのか |
| 6 | 春暑し飛び交う猫の数かぞえ | 武田希美 |
| 7 | フィルム奥日とひまわりが輝いて | 森ほのか |
| 8 | 茄子漬けの祖母の味には及ばない | 森ほのか |
| 9 | 染まる舌かき氷後のにらめっこ | 森ほのか |
| 10 | 遠巻きに線香花火静かなり | 武田希美 |
| 11 | 秋めいて逆お下がりを託す我 | 山口莉穂 |
| 12 | 曇天と煌る眼差し七五三 | 武田希美 |
| 13 | 秋の池祖母の庭には月が咲く | 山口莉穂 |
| 14 | 弁当を口に頬張る秋晴に | 山口莉穂 |
| 15 | 秋高し舞う葉を掴む肩車 | 菅谷知世 |
| 16 | 満月や母につられてうた歌う | 武田希美 |
| 17 | 新蕎麦や香る季節に茹でる母 | 山口莉穂 |
| 18 | 皆いると橙染まる寒き夜 | 森ほのか |
| 19 | 初詣鐘鳴らす背は頼もしく | 森ほのか |
| 20 | 兄と我霜柱踏む幼き日 | 森ほのか |
| 21 | 炬燵にて寝ぬる子を掻き抱き父 | 菅谷知世 |
| 22 | 母の笑みいつでも炬燵のそばにあり | 山口莉穂 |
| 23 | 我と犬三角座り年惜しむ | 武田希美 |
| 24 | 白菜の味噛み締めし上京前 | 菅谷知世 |
| 25 | 寒き日の炬燵争奪犬勝利 | 森ほのか |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 鶯のさえずり響く気が揺れる | 毛利くるみ |
| 2 | 頑張ってあともう少しで卒業だ | 毛利くるみ |
| 3 | 第一步新たな自分見つけよう | 嶺千歳 |
| 4 | 別れあり出会いもありの桜道 | 毛利くるみ |
| 5 | 卒業と新天地への胸騒ぎ | 向井天馬 |
| 6 | 母の日に手紙に咲かすカーネーション | 向井天馬 |
| 7 | 春風でなびく髪が美しい | 毛利くるみ |
| 8 | 花粉症春の訪れうれしくない | 嶺千歳 |
| 9 | 紫陽花の色が変わると梅雨終わる | 嶺千歳 |
| 10 | 歯にしみる頭がキーンとかき氷 | 嶺千歳 |
| 11 | ゆさゆさとなびいて揺れる秋の草 | 嶺千歳 |
| 12 | 色のない真っ青な空心晴れ | 嶺千歳 |
| 13 | 歩いててふとした時に金木犀 | 鈴木恵理 |
| 14 | ぐつぐつと鍋が始まる冬の夜 | 嶺千歳 |
| 15 | 渡り鳥朝焼けの中出発だ | 嶺千歳 |
| 16 | 冬休みきらきら光る星空よ | 毛利くるみ |
| 17 | 冬の風自転車すすめ冬風邪に | 向井天馬 |
| 18 | 黒板に卒業までの日にち書く | 向井天馬 |
| 19 | いつもより冬の便りが遅く来る | 向井天馬 |
| 20 | 祖母の味体にしみるお正月 | 嶺千歳 |
| 21 | 緊張でみんなが辛いてよ動け | 鈴木恵理 |
| 22 | アラザンがキラキラ光るチョコレート | 鈴木恵理 |
| 23 | 噛み砕く氷の音が気持ちいい | 鈴木恵理 |
| 24 | くちびるを舐めたらヒビが痛いです | 鈴木恵理 |
| 25 | 見ただけで寒さ感じる白い雪 | 嶺千歳 |

順番 俳句

作者

1 おい地球今年の雪はどこ行った

中村績寿

2 雪搔きや一日十分三十円

中村績寿

3 雪搔きを終えて始まる一週間

大中廣太郎

4 前髪に積雪三ミリの孤独

工藤ひすい

5 お小言に憎らしき雪晴れを添え

三上莉礼

6 雪像にパンチ一発入れてみる

大中廣太郎

7 大雪の日や小テスト三つあり

福眞颯子

8 授業では直弼が死ぬ細雪

福眞颯子

9 教科書は拭けばいいいだる雪合戦

大中廣太郎

10 雪染みる足裏に肉刺三つあり

工藤ひすい

11 雪深し模試予定表剥がれ落ち

福眞颯子

12 北国の君だけが知る雪のこと

三上莉礼

13 雪玉で遊ぶ僕らはシンメトリー

中村績寿

14 ふかふかな窓の向こうの雪だるま

中村績寿

15 昼下がりにまた屋根雪の落ちる音

藤田翔琉

16 雪催恍ける振りの上手くなり

福眞颯子

17 初雪も初恋も紙上だけの嘘

三上莉礼

18 大雪や眼窩の裏に私いる

工藤ひすい

19 雪だるま退化す人は成長す

大中廣太郎

20 雪にでも売ってみようかマツチ棒

中村績寿

21 鍵盤も震える午後の雪しまき

三上莉礼

22 電灯に照る雪今日は積もるらし

藤田翔琉

23 遠吠えの響くや今日の雪月夜

藤田翔琉

24 雪明かり万年筆のインク青

福眞颯子

25 初雪や夢をみれないおとなたち

三上莉礼

順番 俳句

作者

1 卵焼く立冬の窓見やりつつ

福田匠翔

2 小春日の腿にパン屑散つてをり

安井大晴

3 マフラーや座ればすぐに寝てしまふ

福田匠翔

4 抱きしめるやうに教科書持つて春

福田匠翔

5 遠足の子らが厠へ流れ来る

依田悠也

6 しやつくりと戦つてゐる遅日かな

福田匠翔

7 蛇穴を出づ水筒の蓋に発条

福田匠翔

8 がたがたと秒針回る暑さかな

田籠瑛

9 流木の飾られてゐる夏館

福田匠翔

10 担任の産休中の百合の花

安井大晴

11 夕端居素直であれと言はれたる

福田匠翔

12 空蟬は幹に縫つてゐるかたち

福田匠翔

13 スリッパを足で揃へて秋の蝶

田籠瑛

14 魚卵ごと腹を頬張る良夜かな

田籠瑛

15 芒原しづかに風見鶏まはる

福田匠翔

16 買ふ本は作家で決めて秋灯

安井大晴

17 体育祭肩組む人の名を知らず

田籠瑛

18 教会の壁や延のごとく鳶

福田匠翔

19 雲に雲かさなつてをる秋思かな

福田匠翔

20 日向ぼこ卵の茹で方の話

福田匠翔

21 枯園や犬つかまれて舌を出す

福田匠翔

22 食券の紙のかたさや隙間風

田籠瑛

23 東京の宛名の長し賀状書く

福田匠翔

24 初詣歩みの遅き人が父

依田悠也

25 独楽上手き子のいつまでも回しをり

依田悠也

順番 俳句

作者

1 挨拶も今日で最後だ桜の木

村上ゆい

2 ランドセル飛び馳せ巡り開幕す

安孫子凜音

3 学問に王道はなし桜坂

大塚芽衣

4 鳥が鳴く別れの季節目前と

酒井環妃

5 別れるや巢立つ鳥に錘つく

安孫子凜音

6 藤の花出会い求めて足進む

酒井環妃

7 太陽を浴びて猫寝る夏休み

村上ゆい

8 瓶の中カランカランと夏の声

大塚芽衣

9 時過ぎて自然の記憶くす落ち葉

菅野ほのか

10 田んぼ道役目を果たす蛭たち

酒井環妃

11 風鈴の音がりんりん綺麗だな

亀井香乃花

12 あぶら汗自分に向き合う価値ありと

安孫子凜音

13 栄光に近道はない流れ星

村上ゆい

14 空澄んで見上げた先は秋高し

亀井香乃花

15 ヒガンバナ君との時間を忘れない

菅野ほのか

16 星月夜笑う門には福来る

菅野ほのか

17 落ちにけり会津知らず夕日かな

安孫子凜音

18 息白く思い募らす冬隣

亀井香乃花

19 雪の音目覚めた私を起こす朝

村上ゆい

20 日が暮れて白い息出て冬目覚め

大塚芽衣

21 光る道下キドキしながら歩き出す

大原天音

22 玄関に立ち尽くす猫こたつ待ち

大原天音

23 まな板の音が聞こえる布団の中

大原天音

24 年初めページをめくる赤い本

大原天音

25 雪参る心揺らがす恋心

酒井環妃

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|-------------------|-------|
| 1 | 信号を待つ一瞬の春疾風 | 吉村優菜 |
| 2 | 芳しき佐保姫のゐるところから | 長谷川陽太 |
| 3 | 蒲公英をまたぐ人名をつける人 | 村井沙紀 |
| 4 | 靴紐のほどける度に土筆かな | 吉村優菜 |
| 5 | 疎らなり雑に茂れる春田かな | 佐藤昊世 |
| 6 | 柩引き通り過ぎたる仏生会 | 小野愛美 |
| 7 | 静けさや海底をゆくエイの群れ | 小野愛美 |
| 8 | 小石蹴るこの恋かけてみたり夏 | 吉村優菜 |
| 9 | 猫にのみ口を聞く子や額の花 | 村井沙紀 |
| 10 | 空蟬の飴色は夏吸ひてこそ | 佐藤昊世 |
| 11 | ペディキュアの青く輝く日焼かな | 長谷川陽太 |
| 12 | 南下せよひまわりの咲くところまで | 小野愛美 |
| 13 | コスモスを揺らして行きぬランニング | 村井沙紀 |
| 14 | 秋高し鳥ならぬもの飛びさうな | 佐藤昊世 |
| 15 | 蟻螂の堂々と立つ回り道 | 長谷川陽太 |
| 16 | 陽の照るは四つ割れたる柿の尻 | 佐藤昊世 |
| 17 | 父におんぶせがんでみたき良夜かな | 吉村優菜 |
| 18 | 彼は誰時月を踏みつけピンヒール | 小野愛美 |
| 19 | 二つ星ベガまで回ろう神秘主義 | 小野愛美 |
| 20 | 小春かな赤きコーンの長き影 | 佐藤昊世 |
| 21 | 呼吸のみ存在しをり竈猫 | 村井沙紀 |
| 22 | 雪だけど隣を歩く君はいない | 吉村優菜 |
| 23 | 待ち合わせの時間忘れるクリスマス | 長谷川陽太 |
| 24 | カップ麺買いに行く年の夜の町 | 長谷川陽太 |
| 25 | 弟の屈みて満つる冬の月 | 村井沙紀 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|--------------------|------|
| 1 | どの道を行っても一人初明り | 富永子々 |
| 2 | ぬくもりの残る丸椅子二月かな | 井口慶人 |
| 3 | ポッキーのチョコじゃないとこあげる春 | 表夏輝 |
| 4 | 春愁やじわりと滲むリトマス紙 | 青山和加 |
| 5 | 失恋の吐息にまはる風車 | 青山和加 |
| 6 | 永き日やコーヒー満ちる喫茶店 | 井口慶人 |
| 7 | ふはふはと恋実る夢桜草 | 青山和加 |
| 8 | 春風のフオークリフトに運ばるる | 表夏輝 |
| 9 | しあわせな進路って何霞草 | 青山和加 |
| 10 | 踊り場で踊る高一青嵐 | 鎌田龍 |
| 11 | 彗星に乗りたし夏の海遠し | 青山和加 |
| 12 | ラムネ飲む三次関数迷走す | 青山和加 |
| 13 | 玄関にセーブポイントくれよ夏 | 富永子々 |
| 14 | 原爆忌歌いたいもの歌いつつ | 富永子々 |
| 15 | 壁中に押しピンのあと残暑かな | 表夏輝 |
| 16 | ビーカーの紅茶明るく秋の空 | 富永子々 |
| 17 | 木犀を纏ふるものを買ひにゆく | 富永子々 |
| 18 | キャンディで食ひつなぐ帰路秋夕焼 | 鎌田龍 |
| 19 | 本屋出て手元に流れ星一つ | 富永子々 |
| 20 | 立冬や爪切りばさみ錆びてをり | 表夏輝 |
| 21 | 一葉忌ページをめくる音軽し | 井口慶人 |
| 22 | スンドゥブと繰り返しつつ冬に入る | 鎌田龍 |
| 23 | 泥中に制服もあり山眠る | 富永子々 |
| 24 | 水槽に主のおらず春隣 | 富永子々 |
| 25 | 赤シート越しに見る窓春を待つ | 表夏輝 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|---------------------|-------|
| 1 | アボカドのあけはなたれて日永かな | 渡邊広脩 |
| 2 | ボックスの受話器おほきし彼岸過 | 大杉悠真 |
| 3 | 平均台ゆく一団や夏の雲 | 岡本龍太郎 |
| 4 | 朝焼や斜面にシヨベルカー留まる | 岡本龍太郎 |
| 5 | 西進は昼の前借り須磨の海 | 王佳祥 |
| 6 | 飛驒高山あさがほに雲みな落ちし | 大杉悠真 |
| 7 | 柚子坊に何星人と聞きにけり | 大杉悠真 |
| 8 | 「復活」と叫ぶ少年秋の海 | 岡本龍太郎 |
| 9 | 芋虫やフィットネスジム硝子張り | 岡本龍太郎 |
| 10 | 若冲の群鶏の尾や稲光 | 王佳祥 |
| 11 | 枕木を歩く駅員月今宵 | 岡本龍太郎 |
| 12 | 秋彼岸絵の具つつけば色溢る | 渡邊広脩 |
| 13 | 本棚の奥に本棚蔦紅葉 | 大杉悠真 |
| 14 | 板塀の五線譜めいて金木犀 | 岡本龍太郎 |
| 15 | 菊花展のほかはなんにもない旅程 | 大杉悠真 |
| 16 | シナモンスティックでウバ啜るきみとだけ | 王佳祥 |
| 17 | 冬りんご通知は全部OFFにして | 大杉悠真 |
| 18 | 霰啼くまた湯に足を踏みいれる | 王佳祥 |
| 19 | 草千里凍雲の影吸われゆき | 渡邊広脩 |
| 20 | 風呂吹を崩しゆくとき声漏れて | 渡邊広脩 |
| 21 | 鍵盤のおもさと雪の関係性 | 大杉悠真 |
| 22 | 電柱に海拔貼られ眠る山 | 岡本龍太郎 |
| 23 | やまあひに湖あり百の鶴あり | 岡本龍太郎 |
| 24 | 関係者以外立ち入り禁止 雪 | 岡本龍太郎 |
| 25 | 雪暗や終着駅のさきに町 | 渡邊広脩 |

山口県立徳山
高等学校A

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | 食パンの少しへこみて終戦日 | 原田爽花 |
| 2 | りんだうが悪夢のそばに咲いてゐた | 堀澤奈津実 |
| 3 | 花林糖くだけて残る夜長かな | 細川明里 |
| 4 | 私にもスラムの子にも星流る | 原田爽花 |
| 5 | 目薬の雫おほきな文化の日 | 澁谷夏輝 |
| 6 | ちるりると落ちていてふの雑貨店 | 細川明里 |
| 7 | ペテン師にポインセチアの祝福を | 原田爽花 |
| 8 | 靴紐は二回ほどけて星冴ゆる | 堀澤奈津実 |
| 9 | 生唾の飲み込み難き霜夜かな | 原田爽花 |
| 10 | 蜘蛛の巣が張りつめてゐる手の寒さ | 澁谷夏輝 |
| 11 | 相乗りの席沈み込む冬木立 | 澁谷夏輝 |
| 12 | 信号は錆びついてをり厚氷 | 原田爽花 |
| 13 | パレットの琥珀微かに春時雨 | 細川明里 |
| 14 | ありふれた日々にふやけた子猫かな | 原田爽花 |
| 15 | 相槌のリズム崩れてシクラメン | 原田爽花 |
| 16 | 上履きを洗ふ手のひら春うらら | 堀澤奈津実 |
| 17 | 壇に注ぐ光の温度リラの花 | 澁谷夏輝 |
| 18 | 泣きさうなスイートピーの曲がり角 | 澁谷夏輝 |
| 19 | 豌豆の部屋ごとに星満ちてをり | 澁谷夏輝 |
| 20 | あの人の仕打ちにクリームソーダ | 細川明里 |
| 21 | けんけんの一人もたつく苺かな | 澁谷夏輝 |
| 22 | ハンカチの丸文字の名や茄子の花 | 細川明里 |
| 23 | 目の合わぬマネキン二人ダリア咲く | 澁谷夏輝 |
| 24 | 百分の十八生きて冷奴 | 澁谷夏輝 |
| 25 | 虹のいろ数へてひとつ足りなくて | 堀澤奈津実 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|--------------------|-------|
| 1 | 春暁の人目感じず朝散歩 | 星野成希 |
| 2 | 道端に二つの影と土佐水木 | ニッ森祐久 |
| 3 | 花曇水面に白き道の花 | ニッ森祐久 |
| 4 | 暗闇に小さな希望おぼろづき | 畑中陽輝 |
| 5 | 一年後少し痩せたね桜の木 | 大村悠斗 |
| 6 | 星月夜眩しき光に頬緩む | 星野成希 |
| 7 | 春の昼思い浮かんだ子どもたち | 棚橋乃希 |
| 8 | 振り返り思い出に浸る煤払 | 星野成希 |
| 9 | オオデマリ結婚式で飾ろうよ | 棚橋乃希 |
| 10 | 背が同じ目を見て気づく父の日に | 大村悠斗 |
| 11 | 雷に怯える子供ノスタルジー | 大村悠斗 |
| 12 | 梅雨明けや土のコートに響く声 | ニッ森祐久 |
| 13 | 風薫る風鈴響く独り住い | 星野成希 |
| 14 | ひさしぶりいつのやつかなアロハシャツ | 畑中陽輝 |
| 15 | 涼し気な君を羨む夏の星 | 畑中陽輝 |
| 16 | ラムネ飲む女の子ただ泣いていた | 棚橋乃希 |
| 17 | たくさんのスキの中で何遊ぶ | 棚橋乃希 |
| 18 | あの時の感謝を贈る赤い羽根 | 畑中陽輝 |
| 19 | 舟を出し秋澄む海に手が止まる | ニッ森祐久 |
| 20 | 枯葉散り重なる音色は豊かかな | ニッ森祐久 |
| 21 | 霜夜の空輝きし過去偲ぶ | 星野成希 |
| 22 | 車もね着てるよ白のジャケットを | 棚橋乃希 |
| 23 | この季節君には似合う雪化粧 | 畑中陽輝 |
| 24 | 半年後老けた横顔寒の入り | 大村悠斗 |
| 25 | 年の内変わらないのは時計だけ | 大村悠斗 |

順番 俳句

作者

- | | | |
|----|------------------|-------|
| 1 | 野を焼くや裏戸に寄せてオートバイ | 蔭山 拓実 |
| 2 | 冷めぬまま詰め卒業の卵焼き | 清水 航 |
| 3 | 鳥雲に入るオーライがはやまらない | 蔭山 拓実 |
| 4 | 虎杖を倒して碑文読みにゆく | 清水 航 |
| 5 | 彼岸会や泡の浮き立つプラカップ | 塩島 彰浩 |
| 6 | 花人をつければガラス工房へ | 清水 航 |
| 7 | ほんたうの晴天羊刈つてより | 河本 高秀 |
| 8 | 岩魚焼く炎が塩を散らしをり | 清水 航 |
| 9 | たちまちに噴水の翅声の中 | 塩島 彰浩 |
| 10 | 立葵いづれ手紙も出さなくなる | 田村 典 |
| 11 | 夏草や走つて人はとりけもの | 田村 典 |
| 12 | 峰雲や呼吸を示す化学式 | 清水 航 |
| 13 | 空蟬をやさしくつまむ白衣かな | 河本 高秀 |
| 14 | 腕軽く叩いて胡椒さやけしや | 河本 高秀 |
| 15 | 虫の声ICUの自動ドア | 蔭山 拓実 |
| 16 | 葉紐ふたすぢ垂るる夜食かな | 河本 高秀 |
| 17 | 帰る日もあり掌に鞆乗するため | 田村 典 |
| 18 | ペンは濃き紺を湛へて未枯るる | 塩島 彰浩 |
| 19 | らふそくの向うより鶴来たりけり | 田村 典 |
| 20 | 落栗を嵌めたしアンタレスの赤 | 蔭山 拓実 |
| 21 | 浮寝鳥電波時計の狂ひたる | 河本 高秀 |
| 22 | 胸板でかまくらの雪固めけり | 清水 航 |
| 23 | 手に髪の毛の抗ひてをりスキー宿 | 塩島 彰浩 |
| 24 | 傘畳むやうに暮れけり落葉焚 | 清水 航 |
| 25 | 広告にあげぼのの空枯芭蕉 | 塩島 彰浩 |

1 踏んで行く時雨れる気配の潦

山本晃大

2 裏路地を巡って出会う冬薔薇

戸田悠惺

3 冬日向タイルの中のヒラメ踏む

戸田悠惺

4 唐揚げを取り合うじゃんけん輝の手で

山本晃大

5 おでん盛る波紋絵皿の深い碧

戸田悠惺

6 和毛めく樹形図型の冬芽かな

戸田悠惺

7 窓明かり映る陶器の冬林檎

白石萌花

8 凍蝶を描きし耳付花瓶なり

白石萌花

9 染付の呉須の濃淡遠雪嶺

白石萌花

10 冬湖の深さほど発色青磁壺

白石萌花

11 冬日差す磁器の花瓶に映る顔

金子佳資

12 大皿に吸い殻溜まる冬陶房

戸田悠惺

13 雪雲の流れ白磁に映るまで

白石萌花

14 手のひらに古砥部の破片冬麗

徳永彩乃

15 陶器磁器分かつつむ冬日差

金子佳資

16 釉融ける煉瓦を滑る寒の雨

金子佳資

17 ナルシスのような真冬の白磁皿

戸田悠惺

18 大寒や窯場の隅に忍ぶ猫

山本晃大

19 ものはらへ寒の雨来る無音界

金子佳資

20 砥部絵皿赤絵と染めし冬夕焼

徳永彩乃

21 白磁観音静かに仕舞う冬の暮

徳永彩乃

22 紅梅を匂わせている砥部絵壺

徳永彩乃

23 春立つや初恋嚙砕できぬまま

白石萌花

24 窯に干す石膏型や冴返る

白石萌花

25 ふきのとう隠しの埴輪がらんどろ

山本晃大